

事業名

東久留米つながり・活力まちづくり事業

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200 字以上～300 字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>モデル事業を通して継続性のある仕組みと組織の構築を目指した。当初は協議会参加団体を中心の組織化を模索したが、モデル事業の短い期間内で参加団体が主管する各部会中心の事業展開に精力が使われた結果、事業推進の過酷さが負担となり、構成団体の組織化への参加は躊躇されてしまった。組織化に向けその活躍に注目した市民つながり隊に今後の中核を担ってもらうことを検討したが、現状では時期尚早と判断し、一定の醸成期間を見ながら検討する方向へ修正した。</p> <p>本体組織は今後、課題抽出と課題解決の為の仕組み構築に専念し、課題解決の実働は別の活動団体（各種のセクター）を組織して活動展開することが継続性のある仕組みになると考える。</p>	4
2	市民性	<p>「新しい公共」への市民の理解が事業への市民参加数になると考える。「市民皆で活力あるまちをつくろう、皆でつながろう」の当事業のスローガンは多くの市民に手ごたえがあった。しかし「地域ブランド開発」という限定された事業では市民参加数に限界もあった。一方で、時間経過とともに「新しい公共」への説明が市民の理解を得て、この事業の継続の必要性が認識され始めたと考える。今後、多くの市民を巻き込んで活動が継続していくものと期待される。「私達のこの間の達成感と楽しさを私達の周りの市民にどのように伝え同じように味わって頂けるか考えて行きたい」との市民つながり隊の声が印象的である。</p>	4
3	波及効果	<p>当事業は8団体の協議体で実施した。多数のセクターが協働して事業を進めるには各セクター間で目的についての価値観が十分に共有されることが大前提と考える。今回は各セクターが事業の各部分を担う仕組みで進行した結果、8団体間の互いの共有に不十分な面が見られた。しかし8団体での協議体は各団体の強みが各団体の弱みをカバーし、事業効果をあげることに大きく寄与した。8団体での協議体は対外的にも信用性の向上をともなった。そして市民つながり隊の形成は活動の成果に大きく貢献した。</p>	3
4	継続性	<p>協議会としては組織継続に至らなかったが、協議会が生み出した市民つながり隊による組織づくりへ道をつなげることができた。協議会構成団体の一つが受け皿となり、来る4月13日に立ち上げを行う。「新しい公共」を担うに真にふさわしい組織誕生の芽生えと考える。資金</p>	3

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

		<p>などの諸課題については市民つながり隊の成長のなかで互いに共有され、共有価値観を築き上げる中で検討され決定されていくものと考ええる。</p>	
5	<p>マルチステークホルダー・プロセス</p>	<p>地域ブランド開発に関わった各団体、市民つながり隊は多くのアイデアの中から洗練された商品を生み出し、広報、販売網にも多大な貢献をし、短期間に協力店の確保を可能とした。市民の地域活動意識調査にも各団体の協力により多様な市民の声を聞き取ることができた。市民サイト化にも多種多様な市民の声を反映させることができた。</p> <p>これらを可能にした市民つながり隊の結成と活躍には、市民相互のつながりづくりを専門としてきた団体によるサポートがあり、これら事業総体に相乗効果を生み出したと考える。</p>	4

合計点

18

ランク

A